平成２９年度　たまねぎ特別栽培防除体系（北もみじ2000）

JAふらの･玉ねぎ部会

項目	4月		5月			6月			7月				8月				9月			10月			11月	
	中	下	上	中	下	上	中	下	1	2	3	4	1	2	3	4	上	中	下	上	中	下	上	中
作況平年値			5/6						7/3	7/9		7/28			8/19			9/9						
生育期節 農 作 業			移植期					球肥大始		球肥大期		倒伏期			枯葉期		収穫期							
白斑葉枯病								○	○	●	●	●	●	○										
小菌核病								○	●	●	●	○												
軟腐病								○	●	●	●	○												
リン片腐敗病										○	●	●	●	●	●	○								
灰色腐敗病													○	●	●	●	●							
タマネギバエ等			○	○	○																			
ネギアザミウマ								●	●	○	●	○	●	○										
●は基幹防除 ○は臨機防除								ポリオキシンAL 500	GペンコゼブまたはGダイセンM 400	アフェット 2,000	フロンサイドSC 1,000	アフェット 2,000	ポリオキシンAL 500	フロンサイドSC 1,000	ポリオキシンAL 500	シルバキュア 2,000	トップジンM 1,000							
殺菌・殺虫薬剤の使用例		ダイアジノン粒 （３～６ｋｇ）		どちらか１回			アグレプト 1,000	アグレプト 1,000	アグレプト 1,000	スターナ 1,000	フジドーL 500	フジドーL 500	フジドーL 500	フジドーL 500	フジドーL 500	フジドーL 500								
			または	ダイアジノン乳 700倍					ポリオキシンAL 500	ディアナSC 2,500	トクチオン 2,000	フローバック 1,000	ディアナSC 2,500	リーフガード 1,500	フローバック 1,000	ポリオキシンAL 500								
除草剤散布					●	○																		
●は基幹防除 薬剤の使用例				（土壌処理） ゴーゴーサン乳剤 （300～500ml） または 細粒剤F （5～6kg）		（茎葉処理） アクチノール乳剤 （100～150ml）																		

	成分P	回数	カウント
ポリオキシンAL （ポリオキシン複合体）	0P	**5回**	0P
GペンコゼブまたはGダイセンM（マンゼブ）	1P	**1回**	1P
アフェット （ベンチオピラド）	1P	**2回**	2P
フロンサイドSC （フルアナジム）	1P	**2回**	2P
シルバキュア （デブコナゾール）	1P	**1回**	1P
トップジンM （チオファネートメチル）	1P	**1回**	1P
アグレプト （ストレプトマイシン）	0P	**3回**	0P
スターナ （オキソリニック酸）	1P	**1回**	1P
フジドーL （塩基性硫酸銅）	0P	**6回**	0P
ダイアジノン （ダイアジノン）	1P	**1回**	1P
トクチオン （プロチオホス）	1P	**1回**	1P
リーフガード （チオシクラム）	1P	**1回**	1P
ディアナSC （スピネトラム）	1P	**2回**	2P
フローバックDF （BT）	0P	**2回**	0P
ゴーゴーサン （ペンディメタリン）	1P	**1回**	1P
アクチノール （アイオキシニル）	1P	**1回**	1P
		合計P	15P

備考
（耕種的防除）
（注意事項）

ネギアザミウマの予察に基づく効率化防除方法
　１回目防除：成虫寄生株率１０％以上で１０日以内防除開始（寄生株率５０％以上では直ちに防除）
　２回目防除：１回目防除の５～１０日後に連続防除
　追加防除：寄生株率５０％以上で直ちに防除

※　使用基準(使用時期)を遵守し、体系の範囲内での栽培とする。(不要な場合は薬剤を削除して可)

※　使用順の入替えは可とするが、防除効果とローテーション防除により体系化しており、または混用の適否もあり体系通りの使用が望ましい。

※　混用に不適なものもあるため注意が必要。(トップジン＋フジドーLなど。)

※　ネギハモグリバエの発生が予想されるほ場、または前年被害のあったほ場では特別栽培を極力避ける。

※　病害虫多発時はアリンサンデス2号　500倍を加用する。
（但

*殺菌剤ではべと病対策で薬剤を変更。

特栽たまねぎ

平成２９年度　たまねぎ特別栽培防除体系（北もみじ2000）

JAふらの・玉ねぎ部会

項目	4月		5月			6月			7月				8月				9月			10月			11月	
	中	下	上	中	下	上	中	下	1	2	3	4	1	2	3	4	上	中	下	上	中	下	上	中
作況平年値			5/6						7/3	7/9		7/28			8/19			9/9						
生育期節 農 作 業			移植期						球肥大始	球肥大期		倒伏期			枯葉期			収穫期						
白斑葉枯病								○	○	●	●	●	●	○										
小菌核病								○	●	●	●	○												
軟腐病								○	●	●	●	○												
リン片腐敗病										○	●	●	●	●	●	○								
灰色腐敗病													○	●	●	●	●							
タマネギバエ等			○	○	○																			
ネギアザミウマ								●	●	○	●	○	●	○										
●は基幹防除 ○は臨機防除								ポリオキシンAL 500	GベンコゼブまたはGダイセンM 400	メジャー 2,000	アフェット 2,000	メジャー 2,000	ポリオキシンAL 500	フロンサイドSC 1,000	ポリオキシンAL 500	シルバキュア 2,000	トップジンM 1,000							
殺菌・殺虫薬剤の使用例		ダイアジノン粒 （３～６ｋｇ）		どちらか１回			アグレプト 1,000	アグレプト 1,000	アグレプト 1,000	スターナ 1,000	フジドーL 500	フジドーL 500	フジドーL 500	フジドーL 500	フジドーL 500	フジドーL 500								
			または	ダイアジノン乳 700倍					ポリオキシンAL 500	ディアナSC 2,500	トクチオン 2,000	フローバック 1,000	ディアナSC 2,500	リーフガード 1,500	フローバック 1,000	ポリオキシンAL 500								
除草剤散布					●	○																		
●は基幹防除 薬剤の使用例				（土壌処理） ゴーゴーサン乳剤 （300～500ml） または　細粒剤F （5～6kg）		（茎葉処理） アクチノール乳剤 （100～150ml）																		

各薬剤が使用できる回数

	成分P	回数	カウント
ポリオキシンAL （ポリオキシン複合体）	0P	**5回**	0P
GベンコゼブまたはGダイセンM（マンゼブ）	1P	**1回**	1P
アフェット （ペンチオピラド）	1P	**1回**	1P
メジャー （ピコキシストロビン）	1P	**2回**	2P
フロンサイドSC （フルアナジム）	1P	**1回**	1P
シルバキュア （テブコナゾール）	1P	**1回**	1P
トップジンM （チオファネートメチル）	1P	**1回**	1P
アグレプト （ストレプトマイシン）	0P	**3回**	0P
スターナ （オキソリニック酸）	1P	**1回**	1P
フジドーL （塩基性硫酸銅）	0P	**6回**	0P
ダイアジノン （ダイアジノン）	1P	**1回**	1P
トクチオン （プロチオホス）	1P	**1回**	1P
リーフガード （チオシクラム）	1P	**1回**	1P
ディアナSC （スピネトラム）	1P	**2回**	2P
フローバックDF （BT）	0P	**2回**	0P
ゴーゴーサン （ペンディメタリン）	1P	**1回**	1P
アクチノール （アイオキシニル）	1P	**1回**	1P
		合計P	15P

備考
（耕種的防除）
（注意事項）

ネギアザミウマの予察に基づく効率化防除方法
　1回目防除：成虫寄生株率10％以上で10日以内防除開始（寄生株率50％以上では直ちに防除）
　2回目防除：1回目防除の5～10日後に連続防除
　追加防除：寄生株率50％以上で直ちに防除

※　使用基準(使用時期)を遵守し、体系の範囲内での栽培とする。(不要な場合は薬剤を削除して可)

※　使用順の入替えは可とするが、防除効果とローテーション防除により体系化しており、または混用の適否もあり体系通りの使用が望ましい。

※　混用に不適なものもあるため注意が必要。(トップジン＋フジドーLなど。)

※　ネギハモグリバエの発生が予想されるほ場、または前年被害のあったほ場では特別栽培を極力避ける。

※　病害虫多発時はアリンサンデス2号　500倍を加用する。（但し、Gベンコゼブ、GダイセンM、フジドーLとの混用は不可。アリンサンデス2号にはN=4%含まれており、500倍200ℓ/10a散布で1回当り化成N=0.016kg/10aの施用量となります(基肥化成N量に注意が必要)。

*殺菌剤ではべと病対策で薬剤を変更。

特栽たまねぎ